

思考力向上につながる授業改善への挑戦

～シンキングツールの活用による「考えてみよう」の具体化～

鳴門市瀬戸中学校

学力調査結果の分析 → 学校課題をブレスト → 反復学習はAIドリルを中心に → 自立型の学習者を育てる授業改善へ

Step1：学力調査の分析

学校の現状分析と学力向上の方策をグループで協議

Step2：協議内容の共有

ホワイトボードと付箋を用いて発表。課題を共有
 課題1：反復学習による基礎学力の定着
 課題2：自ら考える力と表現力の育成

Step3：大学教官からの方向性提案

課題1の対策：鳴門市が導入しているAIドリルを活用。
 反復学習はAIが得意とする分野である。
 課題2の対策：シンキングツールを用いた授業改善の提案

Step4：授業改善への挑戦

シンキングツリーを用いた授業やつながりを意識した教科横断的な研究授業（数学科・保健体育科・国語科・音楽科）を実施。国語科では「地域活性化と魅力化に向けて～旧北灘中校舎活用計画～」をテーマに総合的な学習の時間とつながり授業を展開した。英語科、保健体育科でも思考スキルを意識した研究授業を行う。

Step5：校内研修会での再検討

瀬戸輪COME（校内メンター研修）と校内研修で授業研究会を実施

若手は「失敗を恐れずやってみる」と、ベテランは「共に考えた上でまかせてみる」と実践する。授業研究会で振り返りを行うことで、若手とベテラン、管理職が一丸となって授業改善に取り組んでいる。この姿勢が瀬戸中教職員の一体感につながっている。生徒も教師も育つ学校が瀬戸中学校だ。



鳴門教育大学
 泰山裕先生
 作成資料
 「思考スキルとシンキングツールの紹介」



ホワイトボードと付箋を用いて協議し、内容を全体で共有



大学教官から「考えること」が19種類に分類できることと、思考ツールの活用方法の提案



思考ツールを活用した研究授業。ワークシートには意見を整理しやすくする仕掛けがある

瀬戸中学校では、どのような学校を目指し、生徒にどのような力をつけさせたいかを全国学力調査の結果分析を整理することから校内研修をスタートした。その中で出た課題が「基礎学力の定着」と「思考力の育成」であった。前者は、各教科におけるつまずきの特定と課題解決のために鳴門市で導入されているAIドリルを活用しながら、後者の対策に力点を置き、授業改善に挑戦していくことを確認した。

瀬戸中学校はベテラン教員が若手をサポートしながら「若手教員が育つ学校」を理想としている。若手教員が臆することなく授業改善に取り組める環境づくりは、校内研修と「瀬戸輪COME」（校内メンター制）を融合させながら、進化させている。

校訓「瀬戸の海の如く、優しく、雄々しく、美しく」のように、生徒と教員がともに成長していきたい。



公認キャラクター「瀬戸丸」

【ふりかえりの声】

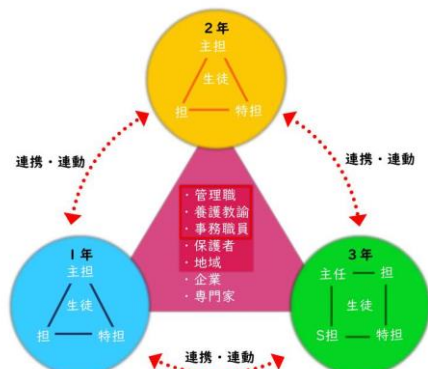
★瀬戸中学校は生徒はもちろん、教職員もともにワクワクを大切にしている。若手が自由に発言できる雰囲気を作ってくれていることに感謝している（若手教員）

★若手教員が育つ学校をつくるためには校内研修の活性化がポイント。短い時間であってもみんなで目線あわせの時間を確保することが大切だと感じている。（管理職）

瀬戸中学校ではグループ担任制で、一人一人の生徒を全教職員で見守り、育てる仕組みを取り入れている。

ベテランと若手の組み合わせにより教師の資質向上を図る校内メンター制「瀬戸輪COME」の活性化

若手教員が育つ学校



1人1人の生徒を学校・地域全体で見守り、育てるシステム（副担任はいない）